

## 当中間期の概況

当上半期におけるわが国経済は、輸出や民間設備投資の拡大および雇用情勢の改善が進み、景気は確かな回復の兆しが見られたものの、個人消費が伸び悩むなど、引き続き低調のまま推移いたしました。トラック輸送業界におきましても、昨年4月に発足した日本郵政公社の影響などにより価格競争をはじめとした同業者間の競争は激しく、依然として厳しい経営環境が続きまして。

このような状況のもとで当社企業グループは、最終年度を迎えた「ヤマトグループ新生進化3か年計画」にもとづき、企業価値向上を目指してまいりました。

営業面におきましては、宅急便のお届け日・時間帯をeメールでお知らせする「宅急便お届け通知サービス」を開始するなど、お客様のニーズを追求して積極的な営業を展開し、増収に努めてまいりました結果、デリバリー事業の営業収入は4,138億12百万円となりました。その他の事業の営業収入は、BIZ-ロジ事業における輸出入が好調に推移したことなどにより1,001億18百万円となりました。以上を併せたグループ全体の営業収入は5,139億31百万円となり、前年同期に比べ6.1%増加いたしました。

費用面におきましては、日本郵政公社に対する競争力の強化を目的とした配達品質の向上に向けた費用の増加がありました。諸費用の削減に努めた結果、営業利益が187億46百万円となり、前年同期に比べ16.9%の増加となりました。これに営業外損益を含めた経常利益は198億38百万円となり、前年同期に比べ16.4%の増加となりました。中間純利益におきましては、退職一時金制度のキャッシュ

バランスプランへの移行に伴う退職給付引当金戻入益の計上、および「固定資産の減損に係る会計基準」の早期適用による減損損失の計上などにより165億63百万円となり、前年同期に比べ158.8%の増加となりました。

当期の中間配当金につきましては、当初の予定どおり、1株当たり9円とさせていただきます。

事業フォーメーション別の概況は次のとおりであります。

### デリバリー事業

デリバリー事業におきましては、宅急便業務は全般的に堅調に推移いたしました。「クール宅急便」の取扱個数は61百万個となり、前年同期に比べ5.9%増加し、「コレクトサービス」は32百万個となり、前年同期に比べ5.3%増加いたしました。その結果、宅急便の総取扱個数は5億9百万個となり、前年同期に比べ5.0%増加いたしました。また、「クロネコメール便」につきましては、昨年のリニューアル発売の効果が続き、取扱冊数は6億59百万冊となり、前年同期に比べ52.0%と大幅に増加いたしました。これに、鉄道、国内航空、その他業務などを併せたデリバリー事業の営業収入は4,138億12百万円となり、前年同期に比べ4.0%増加いたしました。

### BIZ-ロジ事業

BIZ-ロジ事業におきましては、本年4月1日にロジスティクス事業の大部分をヤマトロジスティクス株式会社に分割

するなど、内外一環のロジスティクス事業の体制を整備し、積極的に営業展開したことおよび自動車関連を中心に輸出入が好調に推移いたしました結果、営業収入は550億39百万円となり、前年同期に比べ23.3%増加いたしました。

### ホームコンビニエンス事業

ホームコンビニエンス事業におきましては、引越、物品販売などを含めた生活者向けサービス関連商品の販促に努めましたが、物品販売の主力商品の落ち込みがあった結果、営業収入は209億55百万円となり、前年同期に比べ1.0%の微増となりました。

### e-ビジネス事業

e-ビジネス事業におきましては、営業組織を業種別に再編成し、請負型からソリューション提供型への転換をはかり、積極的な営業に努めてまいりました結果、営業収入は118億44百万円となり、前年同期に比べ16.0%増加いたしました。

### フィナンシャル事業

フィナンシャル事業におきましては、主力商品であるコレクトサービスの増送キャンペーンを展開するとともに、本年4月より新しい決済サービス、宅急便コレクトスプリットサービスを発売するなど、積極的な営業活動を実施した結果、営業収入はコレクトサービスの手数料およびリース料収入を含め122億79百万円となり、前年同期に比べ12.3%増加いたしました。

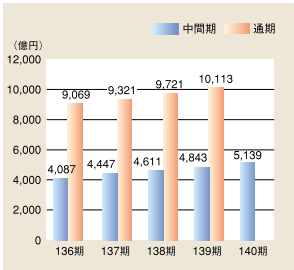
## 通期の見通し

下半期につきましては、景気は引き続き回復基調で推移すると予想されますが、例年にない自然災害の被害の拡大や日本郵政公社のさらなる攻勢など、当社企業グループを取り巻く経営環境は依然厳しいものと予想されます。このような状況のなかで当社企業グループは、「ヤマトグループ新生進化3か年計画」の完遂を目指して、経営改革を進めてまいります。宅急便再構築につきましては、新規出店を積極的に進めるとともに、「クロネコヤマトのドライバーダイレクト」を展開し、宅急便の標準サービスを一段高いステージに引き上げお客様のストレスを解消するサービスの実現に努めてまいります。また、本年10月1日を期してヤマトロジスティクス株式会社、ヤマトグローバルフレイト株式会社およびヤマトパーセルサービス株式会社を併合させ、内外一環のロジスティクス事業の体制強化を行い、更なる拡大を目指しております。

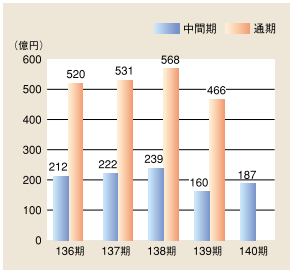
このように今後も、グループ各社がそれぞれの経営資源、強みをネットワークという土台の上に一つ一つ積み上げていくことによって、それぞれの分野で営業力を高め、企業グループ全体での業績向上を目指すとともに、業務効率を改善し、コスト競争力を高めるなど、企業体質の強化をはかり経営基盤の強化に向けて全社一丸となって努めてまいり所存であります。

業績の見通しといたしましては、営業収益1兆600億円、営業利益510億円、経常利益520億円、当期純利益330億円を見込んでおります。

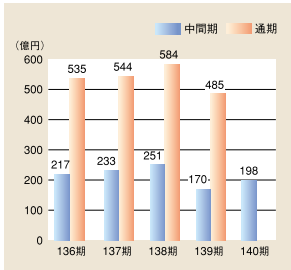
●営業収益



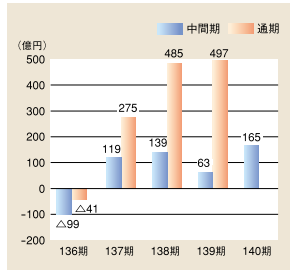
●営業利益



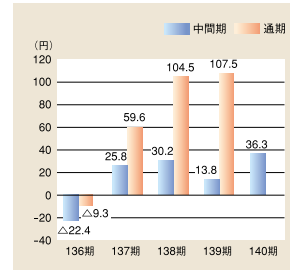
●経常利益



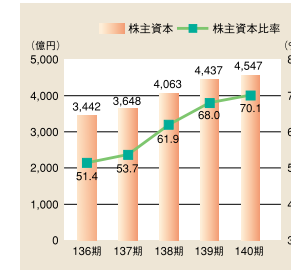
●中間(当期)純利益



●1株当たり中間(当期)純利益



●株主資本/株主資本比率



●1株当たり中間(当期)純利益は、期中平均株式数(自己株式除く)で算出しております。